

報 告 書

平成28年8月25日

松山地方裁判所 御中

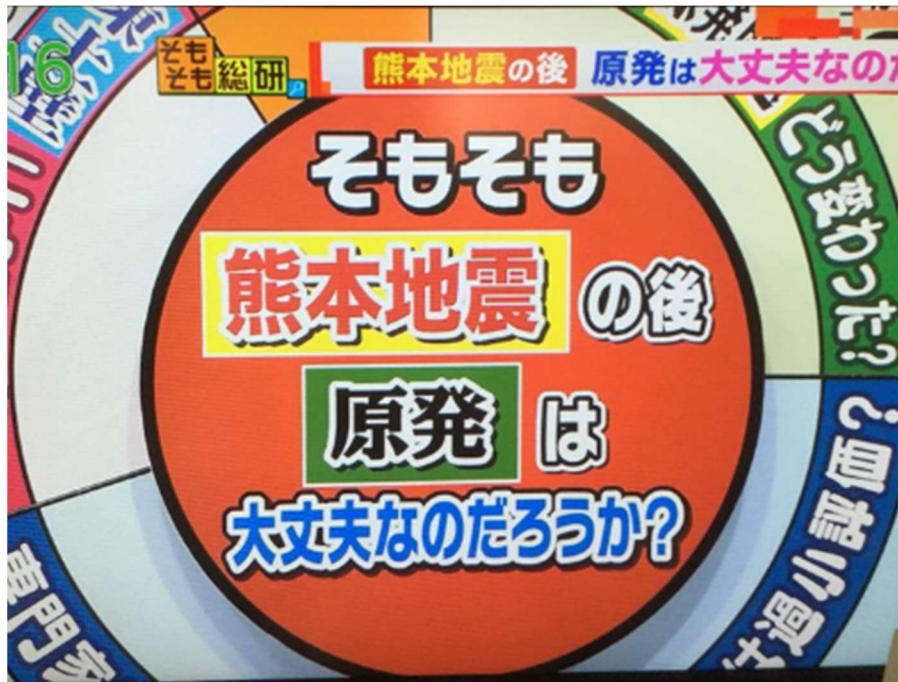
債権者ら代理人 弁護士 甫守 一樹

以下のテレビ番組の内容の一部について、下記の通り文字起こしをしたから、報告する。

番組名：テレビ朝日 羽鳥慎一モーニングショー そもそも総研

「そもそも熊本地震の後 原発は大丈夫なのだろうか？」

放映日時：平成28年8月18日 午前9時16分頃～



記

玉川：

...

今日のテーマはこちらです。そもそも熊本地震の後、原発は大丈夫なのだろうか。

もう4カ月ですね、熊本地震から。実は、大きな被害だったんですけど、

地震学の世界で、熊本地震以前と以後は違うらしいんですよ。

新たな知見が生まれていると、いうふうなことなんですね。

新たな知見が生まれているということを、これ当然原発もですね、地震に対しては備えな

きやいけないわけですから、変わってきているんだらうなというふうに思っておりましたところ、

三反園さん、私かつて一緒に仕事してましたね、鹿児島県の知事になって、川内原発、鹿児島県の原発ですけれど停止の申入れをしたい、それはやっぱり熊本地震を踏まえてちゃんとやった方がいいんじゃないですか、ということなんですけれど。

実は川内原発だけでなく、福井県の大飯原発、大飯原発でも、この方、前の原子力規制委員会の委員長代理の島崎さんという方がですね、見直しが必要だというふうに言い出している。この方、大飯の基準地震動という揺れの安全性を、責任を持ってやった方なんです。その方が見直しが必要だというふうに言い出している。

どういうことかというとですね、

...

何が、熊本地震で問題になったかという、熊本地震ってというのが、実は、予測よりも大きかった。つまり、熊本地震って断層の地震ですよ、この断層が、これぐらいの揺れがあるだろうと考えていたよりも、実際の揺れは大きかったと、ってことになる、

他の場所の断層も、今まで考えていたよりも揺れるんじゃないか実は。そうすると、もしかそこをクリアしないと耐震性に疑問が出るんじゃないか原発のと、いうふうな話です。大飯でも、やっぱりそういう問題が出てきまして、この入倉三宅式っていうふうなことで計算している。計算式は他にも色々あるんですよ。だけど、関西電力はこの方式で揺れを計算してますよと、いうふうなことなんです。

実は熊本地震は、入倉三宅式で想定されていたよりも大きかったというふうなことなんです。

ということは、大きい起きる可能性はあるんじゃないの、というふうなことで、過小評価になっている可能性があるよということなんです。

つまり、何が言いたいか、

大飯原発の耐震安全性に懸念が出てきますよと。

...

今の段階では見直し不要、ということになっているんですけども、

さて、どちらが正しいんだらうという形に私なっちゃうので、お話をうかがいました。

地震の揺れの研究の第一人者です。東京大学の瀨瀬先生。

お話をうかがいます。これどういうふうにとらえればいいんですか、これ、VTR。

(VTR)

島崎さんという方、元々規制委員会にいた方ですよ。いた方が、揺れの想定が甘いと言っているというのは、これ、一体どういうことなんだらうなと思うんですけども。

瀨瀬：

辞められた後に気が付いたということですよ。

我々も、言われてみれば、そういう節があるということを、言われてみて気が付いたというところがありますから。



玉川：

島崎さんが、想定が甘いと、間違っていると。このままだと、その間違ったことになっちゃうというのは、これは正しいと、同じ専門家として言えるのでしょうか

瀬戸：

えっと最後の結論は正しいです。

ナレーション：

地震学の権威である、東京大学地震研究所瀬戸教授は、今回の問題の背景には、地震予測の難しさが根底にあると説明します。

玉川：

素人からするとですね、元規制委員会にいらっちゃった、それも地震の専門家が、今の想定は正しくないんだと言われたら、大丈夫か、となるんですけども。

瀬戸：

実は地震の専門家でも、将来どんぐらいの揺れになるのかということは、正確に予測することは出来ないんで、ま、今のとここれぐらいは分かっているから、それには備えてくださいというのが、基本的な。科学者側のスタンスですね。

玉川：

揺れの大ききってのは予想できんのかと思うんですけど

瀬藤：

起こる地震の規模が、予測できれば、そこから出て来る揺れの大きさは、ま、かなり精度よく予測することができます。でもその大もとの地震の規模を予測することが非常に困難。

ナレーション：

地震は活断層により予測されます。

その方法には、地中にある震源断層の面積から導く方法や、地面に出ている断層の長さから算出する方法などがあります。

実は、これらの方法から予測された地震の結果検証は、我々の記憶に新しい、4か月前のあの地震が初めてだということです

瀬藤：

結果、熊本地震でしか、検証はできない。

どうしてかというと、活断層というのが注目されて色々研究されるようになってから、初めて事前に地震が起こることを予測していて、それで実際に起きたというのは、熊本地震が初めてなんですね。

活断層で起こる地震としては、大地震として初めて今回、出来たんで、発生したんで、それで確かめてみると、予測してたものより、だいぶ大きかった。

ナレーション：

熊本地震は、大飯原発にも用いられている計算式によると、実際の揺れよりも小さいものと予測されていました。

つまり、この結果から。

瀬藤：

検証したら、結果的に過小評価になっていたから、それを使っている大飯原発も、もしかしたらその可能性があるだろうということです。

ナレーション：

地震学の専門家も指摘する、過小評価の可能性。

それでは、この問題を原子力発電設備の専門家は、どのように考えているのでしょうか。

玉川：

この揺れまでだったら耐えられますよと規制委員会は言っているわけですよ。

ところが別の計算式でやってみたら、もっと揺れると。
もっと揺れるというところがクリアできていないということになると。
それは何が壊れるというか、何が、どの辺が危ないんですか。

佐藤：

原発の中には壊れても安全上問題のない機器もあれば、壊れると致命的になってしまっ
て、原子炉を安全に停止できなくなるというシステムがあるわけですね。

特に地震の場合には1つのものに対して集中的に作用するわけではなくて、発電所全体
に作用するわけです。

ですから、通常は止めるという機能は、非常にこの、正常に作動する可能性は高いわけ
ですけれども、他のシステムですよ、閉じ込めるだとか、冷やすとか、そういう機能の
方に影響すると、いうこの懸念があるわけですよ。



玉川：

例えばここまでの揺れだったら耐えられるように造ってますよと。ところが、もっと揺
れが、可能性として出てきましたと。

佐藤：

こういう地震は、明日起こるかもしれないというのを、それが設計の基準ですから。

神棚に起こりませんようにと祈りながらやるものではないわけですよ、設計基準とい
うのは。

ナレーション

一方、額教授は、過小評価という問題よりも、地震予測に対する根本的な考え方を改
めるべきと提言します。

瀬戸：

やっぱり日本全体とか、どこかで最大こんなくらい揺れてたということをベースに考えた方が…

(CM)

ナレーション：

地震学の権威である瀬戸教授は、地震予測に対する、根本的な考え方を改めるべきと提言します。

瀬戸：

科学進んだといっても、特に地震の予測っていうのは非常に難しい面があるんですね。で、しょうがないから、過去で起こったことをベースに、色んな予測をしてるわけですけども。

過去に起こった通りに起こるとも限らないですし、大飯原発の大飯で起こってる最大だけを、考えるんじゃなくて、やっぱり日本全体とか、どこかで最大こんなくらい揺れてたということをベースに考えた方が、私は安全だと思いますけれども。

(スタジオ)

玉川：

つまり、今は、その場所ごとに、これぐらいの断層があるだろうからこれぐらいの揺れが起こるんじゃないかと言って、それに合うような設計しましょうということで原発造られている訳ですけど。

その予測が当たるとは限りませんよと、地震の専門家が言っているんですよ。

そういう中で、原発が今動こうとしてると、いうふうな状況なんですね。

で、もう一つなんですけど、あの、汚染水問題…

以上